

令和5年9月19日（火曜日）

経済観光委員会

第4委員会室

出席委員

山口 悟、白井義一、前川藤枝、駒田かすみ、
井川一善、井上太良、下林崇史、嶋谷秀樹、
西村しのぶ

再開

9時55分

観光経済局

9時55分

職員紹介

前回の委員長報告に対する回答

・姫路球場ナイター照明設備新設及びスコアボード改修等工事の完了を待つのではなく、早期に様々な大会の誘致活動を行うことで、市民の期待に応えられるようしっかりと取り組まれるとともに芝生の適正な管理にも努められたいことについて

本市として工事完了後の姫路球場を活用するため、日本プロ野球機構等に対し誘致活動を進めているところである。また、大規模な社会人野球や高校野球の大会についても、今後検討していく。

芝生の管理については、ナイター利用による球場使用頻度等を踏まえ、姫路球場の指定管理者等とも相談しながら、適正な管理に努めていく。

・国内外から著名なアーティストを招聘した際にも十分満足してもらえるような市内宿泊施設の充実に向けてしっかりと支援されたいことについて

令和3年度、本市において、観光庁の宿泊施設インバウンド支援事業で改修する宿泊事業者へ随伴支援し、姫路市宿泊施設環境整備事業補助金を通じて、宿泊施設の環境整備を支援している。

また今年度は、姫路観光コンベンションビューローにおいて、市内観光事業者に呼びかけ、観光施設の高付加価値化やDX化などの計画を地域計画として取りまとめ申請したところ、観光庁の補助事業である地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業に採択され、現在、宿泊施設9施設が高付加価値化に向けた改修に取り組んでいる。

加えて、姫路市観光産業育成事業補助金制度を創設し、宿泊施設を含む観光施設の快適な環境づくりのた

めの改修等の補助を行っているところである。

今後も市内の宿泊施設をしっかりと支援し、観光都市としての魅力を高めていけるよう取り組んでいく。

・アクリエひめじ駐車場の混雑解消に向けて事前精算機の利用促進や警察協議等も行いながら出庫時間の短縮に努められたいことについて

アクリエひめじの一般駐車場は約380台で、主に大ホールでのコンサート等の公演終了時に出庫が集中している。

開館当初は、公演終了後から出庫完了まで1時間を超えてしまう事案があったが、現在は、事前精算機の利用を促進するほか、駐車数が多い場合には出庫ゲートに係員を配置し、出庫時間を45分程度まで短縮できている。

今年度は、事前精算機を1台増設することとしており、さらなる時間短縮に努めていきたいと考えている。

さらに、現在、警察等関係機関とも協議を行っているところであり、周辺交通事情との整合性を図りながら、混雑解消に向けて検討していく。

議案説明

・議案第131号 議決更正について（姫路市文化センター解体撤去工事請負契約に係る議決更正）

報告事項説明

- ・事業見直しについて（観光経済局）
- ・令和5年度使用料・手数料等の見直しについて（観光経済局）
- ・姫路城世界遺産登録30周年記念事業について
- ・第73回姫路お城まつりの開催について
- ・「姫路城 Castle History 30th 鏡花水月」・「Himeji 大手前通りイルミネーション」について
- ・ヴァヴェル城姉妹城提携事前協議について
- ・観光経済局緊急経済対策事業について
- ・公益財団法人姫路・西はりま地場産業センターについて
- ・姫路市勤労市民会館について
- ・「（仮称）道の駅姫路」整備事業の進捗状況と課題について

・手柄山中央公園再整備事業の進捗について

質疑・質問

10時55分

(質問)

観光客を誘致する事業が増えている中、事業見直しとして、市民が参加する複数の文化事業が挙がっており、とても気になっている。

特に姫路市民文化祭の廃止については、様々な声を聞いている。

一時期に集中し他のイベントが会場を予約できない、参加団体の固定化等を廃止理由として挙げているが、何とか歩み寄ることはできないのかと考えている。

高齢の人たちが生きがいとして活動している団体、自分たちで演奏会を開催できないような小さな団体も年に1回の成果発表の場として楽しみにしている。

いきなり廃止と説明され、代替となる演奏会の検討もできないとのことだが、どのように考えているのか。

(答弁)

戦後、市民の文化の発展の場に提供するため開催してきたものであるが、時代が変わり、SNSやインターネットでの活動発表も可能となっており、役割を終えたのではないかと考えている。

アクリエひめじ開館時に、文化センターで行われていた市民文化祭をアクリエひめじで行うために、時期の集中を少しでも緩和できないかと、各団体の意見を聞き、調整しようとしたものの何も変わらなかった。

加えて、今まで他の会場で実施していた団体もアクリエひめじで行いたいとの声もあり、よりアクリエひめじに集中するようになった。

オープニングシリーズとして3年間を重点期間として取り組んでいる中、全庁的な事業見直しのタイミングと重なり見直すことになった。

8月にその旨の説明を行い、1年前にもこのままでの開催は難しいとの説明は行っていたが、十分なものではなかったと感じている。

そのため、関係団体には9月25日に再び説明を行う旨の案内をしようと考えている。

なお、アクリエひめじの予約は、13か月前からであり、来年の11月分の予約は、10月1日から申込みが可能である。

今後、各団体の状況を見ながら、予算要求においても検討はしていきたい。

(質問)

市民文化祭が廃止された場合、市内の文化団体が、アクリエひめじ等を利用する際の助成制度について、今よりも使いやすいものを整える予定はあるのか。

(答弁)

現状のままではいけないと考えており、しっかり予算要求していきたい。

(要望)

観光事業の活性化も大切であるが、芸術家の輩出や市の誇りにつながる市民文化祭のような事業も大切に残していつてもらいたい。

(質問)

適切な周知期間の設定や活動への支援体制など、各文化団体の声を聞いた丁寧な対応ができていないのではないかと感じるがどうか。

(答弁)

活動資金や会場の確保など、各団体には様々な課題があると思う。

現時点では、どのような支援ができるか分からないが、しっかりと話を聞きながら対応していきたい。

(要望)

各団体もある程度理解しているとは思いますが、急な通知ではなく、しっかりと方向性を示し、適切な対応をしてもらいたい。

(質問)

時期をずらして開催することになっても、姫路市民文化祭という名称は残してもらいたいがどうか。

(答弁)

できるだけ名称は残せるよう検討していきたい。

(質問)

市の催しとして、アクリエひめじやキャスパホール等の会場で成果発表できることは参加者のモチベーションにつながっている。

本市は音楽のまち・ひめじと銘打っており、市民文化祭を廃止するならば、代替となるような催しや助成制度の拡充などが必要と考えるがどうか。

(答弁)

現在の市民文化祭は一度リセットし、新たな市民文化祭の在り方を検討していく必要がある。

補助制度を活用し自主的に開催してもらうのか、市が今までのように開催するのか、各団体の意見を聞きながら、理解が得られる方策を検討していきたい。

(質問)

「姫路城 Castle History 30th 鏡花水月」について、去年は三の丸広場の外側から見る事ができる状態であった。500円を払って入場する人がどの程度いると見込んでいるのか。

また、大手門を施錠し、入場者をきちんと管理しようと考えているのか。

(答弁)

去年の実施時に来場者アンケートを行い、有料時の価格設定として回答が多かった金額としており、入場者は昨年と同規模の5万人を見込んでいる。

また、入場に当たっては、桜門橋、大手門付近で料金を徴収し、中に入らなければ見る事ができないような対応を予定している。北側の喜斎門でも規制を検討している。

(質問)

姫路城の防犯対策として門をどうするのかという問題がずっとあったように思う。

早朝や深夜の散歩やランニングする人たちへの告知はどのように考えているのか。

(答弁)

三の丸広場は、昨年度から試験的に午前0時から午前5時まで施錠している。

その間の出入りは、10人程度でほとんど影響がなかった。

また、今年度も平成中村座公演時に同様の対応を行っており、問題はないと考えている。

(要望)

このような機会を通じて、閉門時間をきちんと周知していきながら、姫路城の防犯体制をしっかりと整えてもらいたい。

(質問)

大手前通りのイルミネーションは、午後10時までとになっているが、もう少し遅くてもよいと思うがどうか。

(答弁)

交通誘導員の配置予算の関係で、平日はそのようになる。金曜日と土曜日及び祝日の前日は、何とか12時まで実施できるよう検討している。

(要望)

ぜひ、よいイベントにしてもらいたい。

(質問)

ヴァヴェル城と姉妹城提携を行うことになった経緯を説明してもらいたい。

(答弁)

摺河学園がポーランドのナザレ校と提携している関係でポーランド大使館から働きかけがあった。

世界遺産の城同士であり、ウェールズのコンウィ城に続く、ヨーロッパの新たな拠点といたく提携を考えている。

(質問)

ノイシュヴァンシュタイン城とは友好交流協定を結んでいるが、姉妹城提携との違いについて説明してもらいたい。

(答弁)

世界遺産の城とは姉妹城提携、それ以外の城は友好交流協定という形で区別している。

(質問)

使用料・手数料の見直しについて、物価高騰に対する対応と考えてよいか。

(答弁)

そのとおりである。

本市は4年に1回の見直しを行っているが、前回はコロナ禍で実施していない。

電気代、原材料費が高騰していることや経費回収率も考慮して見直しを検討している。

(質問)

山陽電車は、バリアフリー化対応のため運賃を値上げしている。

本市においても、こども医療費の完全無料化に対する財源確保のために、入場料や使用料を上乘せすることは可能ではないかと考えている。

これまでに特定の目的があり、そのために必要な料金を徴収していくということを検討したことはある

のか。

(答弁)

姫路城の入城料に関しては、10年間で必要な修理箇所を選定し、その修理費用を賄うため、10年ごとに入城料を見直すこととしている。

(要望)

こども医療費無料化の財源に充てるのならば、理解も得やすいかと思うので、庁内でも検討してもらいたい。

(質問)

じばさんびるや勤労市民会館については、今後の在り方を真剣に考える必要がある。

特にじばさんびるにおいては、立地が悪いとの声も聞いており、地場産業を振興する場所としてどこにあればよいかも含めて検討してもらいたいだろうか。

(答弁)

じばさんびるの老朽化については、以前からの懸念事項であったが、既に限界であり今後の対応をしっかりと検討したい。

(質問)

(仮称)道の駅姫路の整備及び運営事業について、整備計画策定時から建築資材価格や労務単価が大きく上昇している。

概算事業費として約32億円を想定しているが、今後の増額補正が必要ないよう、ある程度余裕をみた予算枠を確保しておく必要があると思うだろうか。

(答弁)

「(仮称)道の駅姫路」基本計画は、令和4年3月に策定したものであり、現状では、鉄骨等の建設資材の高騰が見込まれる状況である。

財政局には37億円程度の建設費を予算要求しているが、コスト縮減等の検討も行いながら設計を進めていきたいと考えている。

(要望)

兵庫県と協調することで計画が遅れることになったとのことであるが、今後、公募したが手を挙げる事業者がなく、事業開始がさらに遅れるという事態が生じないように、しっかり取り組まれたい。

(質問)

プレミアム付き商品券事業について、デジタル、紙とも15万セット、プレミアム分はデジタル3,000円、紙2,000円となっており、市が負担するプレミアム分はデジタル4.5億円、紙3億円の合計7.5億円である。

当該事業の予算額は10億1,000万円なので、2億5,000万円程度が事業実施に必要な費用ということか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

同事業は昨年度も行っており、11億1,405万円を支出している。

デジタル商品券のシステム構築費は既に支払っており、今年度は発生しないものと考えているが、デジタルと紙の経費の内訳について説明してもらいたい。

また、システム構築を行ったのは市内の業者なのか。

(答弁)

システム構築については、利用者が操作するアプリだけでなく、利用店舗での取引履歴等の管理や金融機関等の複数の業者が絡んだ複雑なシステムとなっている。

システム障害等のリスクを考え、本市ではシステムを所有しないため、昨年度のシステムの再設定費用が1,000万円程度となっている。

なおデジタル、紙の経費の内訳については、双方とも4,000万円程度となっており、その他は、広報や参加店舗の募集等に係る共通経費である。

また、システム構築は福岡の業者が行っている。

(質問)

民間では一度作成したものに再度同じ金額を支出することはあまりない。

デジタルと紙の経費に8,000万円、その他に1億7,000万円を支出しており、相当の金額である。

詳細な内訳が分かる資料を提出してもらいたい。

(答弁)

(委員会終了後、委員に資料配付)

(質問)

システム構築に改めて費用を支出するのはとても無駄に感じる。

市内業者ならば理解もできるが、昨年度に続き今年

度も福岡の業者となっていることについて、何も意見は出なかったのか。

(答弁)

準市内の事業者が元請業者となり、システム構築は福岡の事業者が下請けで入っている。昨年度は、今年度と同様にコンペで事業者募集したものの、準市内、市外事業者の応募しがなく、市内事業者をとの意見は出していない。

(質問)

加古川市では、令和2年からP a y P a yを利用したポイント還元事業を行っており、当時のP a y P a yは、店舗の費用負担が発生しなかったため、開始当初から約1,800店の参加があり、現在は約2,300店である。一方の本市は、参加店舗は347店である。

また加古川市は、2年間の事業費が400万～500万円とのことであるが、P a y P a yのような既存の仕組みの活用についてどのように考えているのか。

(答弁)

本市の参加店舗数は、昨年度は最終的に2,200店あまりの応募があったため、最低でもその程度の店舗数にはしたいと考えている。

P a y P a yやd払いは、経費削減のため検討を行ったが、市内小売店ででの使用に限定ができるか、市民限定の還元ができるか等の条件で比較検討した結果、採用を見送っている。

P a y P a yやd払いは、随時改修が行われているので、次回の実施があれば、単純に前例踏襲するのではなく、改めて導入の可能性について考えていきたい。

(要望)

市民に喜ばれるような事業としてもらいたい。

(質問)

中小企業等省エネ設備導入支援事業について、5億1,000万円の予算中、承認額が1億7,700万円程度と申請数が伸びていないが、制度の利用がしにくいのか。

(答弁)

承認額は交付決定済のものであり、申請中のものを合わせると約2億4,000万円になっている。

しかしながら、予算額の半額程度であり、ホームページでの広報や、商工会議所や商工会、電気事業組合

への案内も行っているものの、想定よりも申請が少ない状況となっている。

(要望)

あまり人気のない事業ならば、見直しも検討し、必要などころに適切な支援ができるよう取り組まれたい。

(質問)

前回の委員会で論議された超富裕層向けの観光再始動事業について、応募者の状況を説明してもらいたい。

(答弁)

販売はまだ行っておらず、販売に向けた最終調整を行っているところである。

(質問)

手柄山中央公園再整備事業について、今までに経験がないような物価高騰がある中で、現在はどのような状況であるのか。

(答弁)

供用開始予定日に間に合うようなスケジュールで動いているが、資材や労務単価がどこまで上昇するかは想定できないところがある。

採算の取れない状態で事業をしてもらうわけにはいけないので、事業者としっかりと協議し、コスト削減できるものは削減しながら、必要となる経費は適正に負担していきたい。

(要望)

資材価格の上昇や人手不足等の様々な問題があるが、事業者としっかりと協議し、市民の期待に十分応えられるような、よい施設を整備してもらいたい。

(質問)

姫路城プレミアムナイトツアーの販売実績について説明してもらいたい。

(答弁)

9月15日から19日まで4日間の開催で、1日目が2人、2日目が7人、3日目が10人、4日目が9人である。

(意見)

1人5万円という高額の価格設定だったため、どれだけ参加者があるのか心配していたが、想像以上でよかったと思う。

(質問)

事業見直しの項目に芸術文化賞が挙がっているが、この賞を廃止するというのか。

(答弁)

廃止ではなく賞の数を見直したいと考えている。

(質問)

じばさんびるや姫路市勤労市民会館には、大人数で利用できる研修室があり、予約で埋まっていることが多い状態である。

これらの施設がなくなれば、市内の研修会場は限られてしまうが、何か考えていることはあるのか。

(答弁)

今後、公益財団法人姫路・西はりま地場産業センターの法人としての在り方を検討していくことになり、じばさんびる自体は当分の間、維持していくこととなる。方向性はまだ定まっていないが、会議室が利用できなくなることがないように考えていきたい。

なお、大人数で利用できる会議室は、兵庫県立姫路労働会館や飾磨市民センター等の類似施設があるので、相談に乗っていきたい。

(質問)

姫路しらさぎ商品券のアプリは、昨年度と同じものがそのまま利用できるのか。

(答弁)

アプリのアイコンや中身は更新しているが、昨年度と同じアプリ名で登録しているので、昨年度のアプリがインストールされていれば、特別な設定をしていないかぎり、自動更新される。

アプリ起動後の登録作業は必要である。

(質問)

昨年度は、商品券の金額を支払うのにコンビニやゆうちょ銀行のATMに行く必要があった。

デジタル商品券であれば、決済までワンアクションでできなければ意味がないと伝えていたと思うが、今年度はどうなのか。

(答弁)

クレジット決済の検討を行ったものの、クレジット会社に支払う手数料として約4,000万円が必要となるため、今年度も昨年度同様、コンビニやゆうちょ銀行

のATMでの支払いをお願いしたい。

(質問)

昨年度は、アプリ内に金融機関の一覧が表示されたので、そこから各金融機関のアプリに遷移して、決済ができると思ったが、それはできないとのことであった。その点は改善されたのか。

また、新たな登録が必要とのことであれば、その旨をきちんと明示しておいてもらいたいがどうか。

(答弁)

金融機関の一覧が表示される点については、昨年度に指摘を受けており、きちんと対応したい。

また、新規登録の注意点についてもしっかりと明記したい。

(要望)

デジタル商品券であるのに、コンビニ等に支払いに行く必要があることや紙の商品券を購入するためにホームページから申し込む必要があるなど、ちぐはぐな点がある。

このちぐはぐさは、市民にとって使いにくい部分となるので、しっかりと留意してもらいたい。

観光経済局終了

12時26分

休憩

12時26分

再開

13時25分

【予算決算委員会経済観光分科会（観光経済局）の審査】

意見取りまとめ

14時08分

(1) 付託議案審査について

・議案第125号、議案第126号及び議案第131号、以上3件については、いずれも全会一致で同意または可決すべきものと決定。

(2) 閉会中継続調査について

・別紙のとおり閉会中も継続調査すべきものと決定。

(3) 委員長報告について

・正副委員長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了

14時14分

【予算決算委員会経済観光分科会の意見とりまとめ】

協議事項 **14時15分**

・行政視察について

令和6年1月15日（月）～19日（金）の間で実施することに決定。日程、視察先及びテーマについて正副委員長に一任することに決定。

閉会 **14時18分**